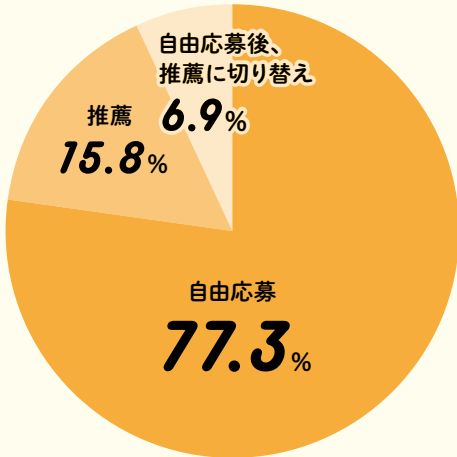


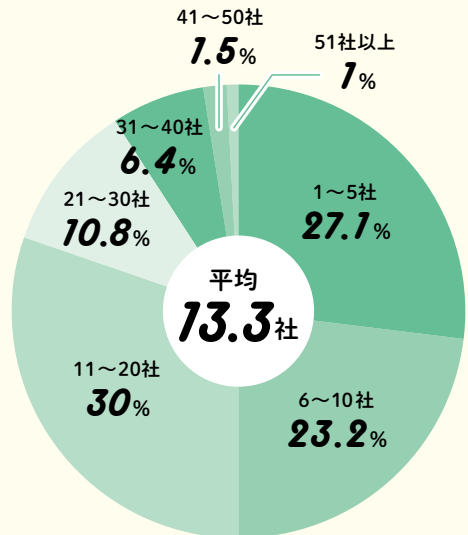
内定先企業への応募方法

かつては推薦を利用して就職することが多かった理系学生ですが、近年では自由応募による就職活動が多数派となっています。金融やコンサルといった専攻分野とは直結しない業界だけでなく、メーカーやITなどでも自由応募を中心に活動している理系学生は珍しくありません。



エントリーシート提出数

理系は厳選してエントリーしている学生が多く、平均提出社数は13.3社となっています。推薦応募を中心に応募企業を厳選して活動している理系も少なくありませんが、自由応募をメインに活動している方やいわゆる文系職種を志望している方のエントリー数は比較的多めの傾向があります。



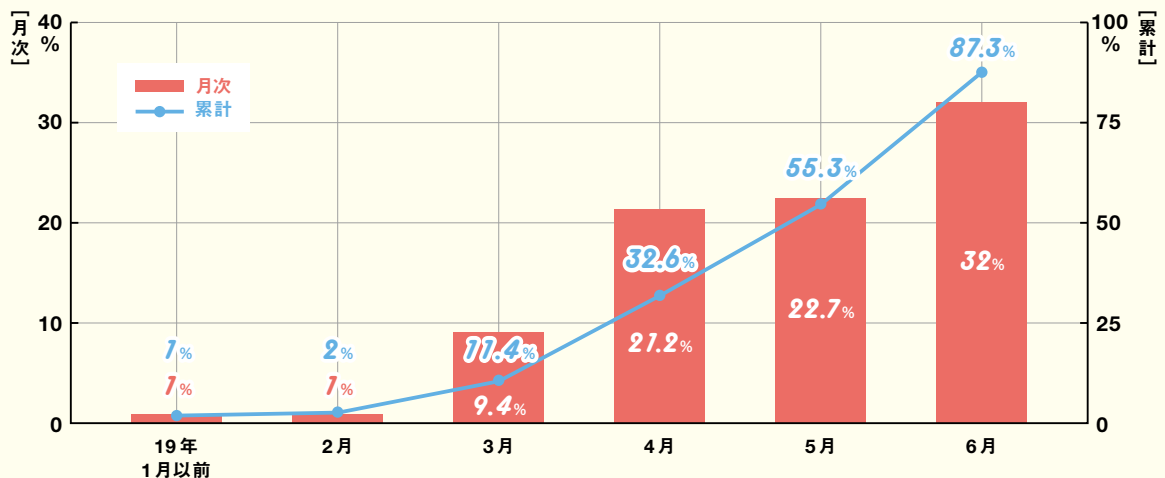
就職活動

選んだのか…。このページでは、2020年卒業予定で就職活動にどんな就職活動をしたのか、データから読み解いてみましょう。

【調査方法】インターネット調査（回答フォームへの記入）【回答数】203名

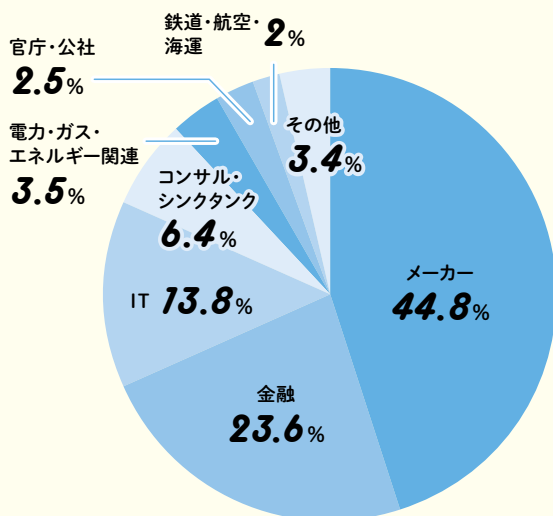
内定承諾時期

採用選考が開始となる6月に入ってから主要企業の多くが内定を出しており、内定承諾率も一気に上昇しました。その一方で、主要企業の内定出しが始まる前（5月時点）に55.3%（前年同期比9.1%増）がすでに内定を承諾しています。就職活動早期化の傾向は加速しており、前年より内定時期が前倒しの傾向となっています。



〈業界別〉内定承諾企業

内定承諾業界については44.8%をメーカーが占め、金融、ITがそれに続きます。さらに内訳の業態を見るとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではSierのSE。金融系では数理能力を活かせるアクチュアリーなど金融専門職への内定が多く見られます。その他は商社、マスコミ、研究機関などがありました。



内定承諾の決め手

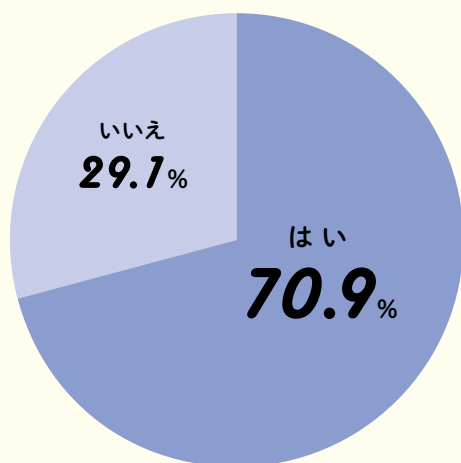
内定承諾の最終的な決め手で1位となったのは「仕事内容」。「この仕事をしたい!」という想いが決め手となった方が多いようです。2位は「社員の魅力」で、一緒に働く仲間が魅力的であるという点も、就職先を選ぶうえで重視されています。

- 1位 仕事内容
- 2位 社員の魅力
- 3位 専攻を活かせる
- 4位 社風
- 5位 成長できる環境

データで見る 理系の

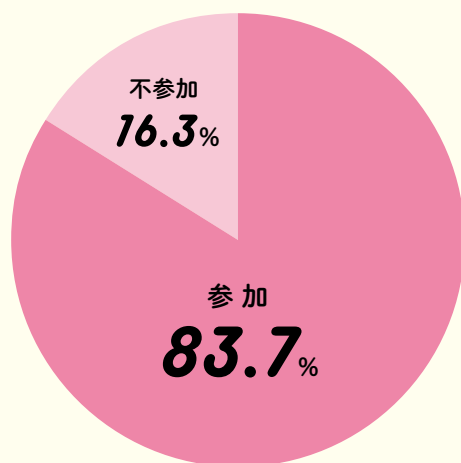
理系の先輩たちは就職活動をどのように進め、どんな業界・会社を臨んだ理系の先輩たちの各種データを集計しました。先輩たちが

【調査対象】 理系ナビ2020会員 【調査期間】 2019年6月~7月



専攻・研究分野を活かせる仕事を希望したか

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は70.9%。「いいえ」と答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見がみられました。



インターンシップ参加率

以前はインターンシップといえば夏の開催が主でしたが、近年は秋から冬にかけても多数のインターンシップが実施されています。参加機会の増加に伴い、学生のインターンシップ参加は増加傾向にあります。